

# 「ユビキタスネット社会」に関する アンケート結果報告書 ＜平成19年度＞



## 概要版

平成19年11月  
近畿情報通信協議会

## 1. 調査計画と標本構成

## 2. 調査結果

- (1) 家庭等における情報メディアの利用状況について
- (2) インターネットの利用状況について
- (3) 携帯電話・PHSの利用状況について
- (4) ICカードについて
- (5) 地上デジタル放送について
- (6) ICT機器の保有状況について
- (7) ユビキタスネット社会について
- (8) ユビキタスネット社会への期待と不安

※本概要版は、アンケート結果の一部のみを記載しています。

また、平成18年度も同様の調査を実施しており、18年度調査と比較したコメントを記載しているところがありますが、必要な方は当協議会事務局までお問い合わせください。

# 1. 調査計画と標本構成

## ■ 調査対象

- ・近畿圏在住の12歳以上の男性、女性 計1034名

## ■ 調査方法

- ・民間インターネット調査会社の登録モニターを利用したWebアンケート
- ・年齢構成は、平成17年度国勢調査を基にサンプルを割り付け、合計1000サンプルを目標に収集

## ■ 調査期間

- ・平成19年8月6日～8月8日

## ■ 標本構成

### ◆性別 (％)

	回答者数	男性	女性
全体	1034	49.0	51.0

### ◆年齢 (％)

	回答者数	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
全体	1034	6.0	13.7	16.8	14.0	17.3	28.3	3.8

### ◆職業 (％)

	回答者数	公務員	経営者・役員	会社員(事務系)	会社員(技術系)	会社員(その他)	自営業	自由業	専業主婦	パート・アルバイト	学生	その他
全体	1034	2.7	2.7	11.1	10.0	8.2	9.5	2.1	21.7	8.1	8.7	15.2

### ◆インターネットの利用年数 (％)

	回答者数	1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上
全体	1034	2.3	8.4	18.8	49.5	21.0

### ◆携帯電話又はPHSの利用年数 (％)

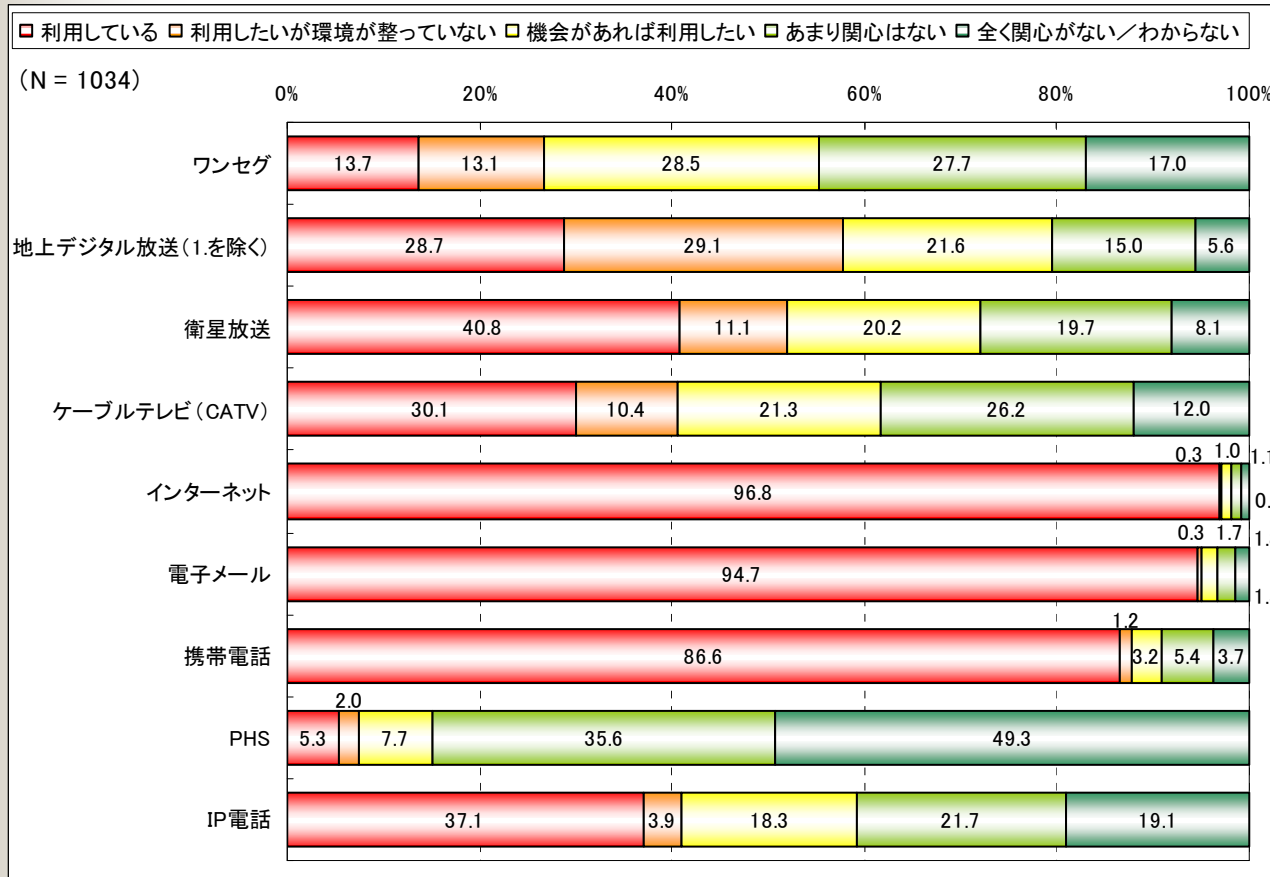
	回答者数	1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	利用していない
全体	1034	1.8	6.4	13.6	28.2	30.4	9.6

# 2. 調査結果

## (1) 家庭等における情報メディアの利用状況について

### ■ 情報メディアの利用状況

(単一回答)



◆よく利用している情報メディアは、「インターネット」、「電子メール」、「携帯電話」などの通信系メディアである。

◆放送系メディアでは、「地上デジタル放送」が28.7%と18年度調査から大きく利用者が増え、「ケーブルテレビ」の30.1%を越える勢いである。

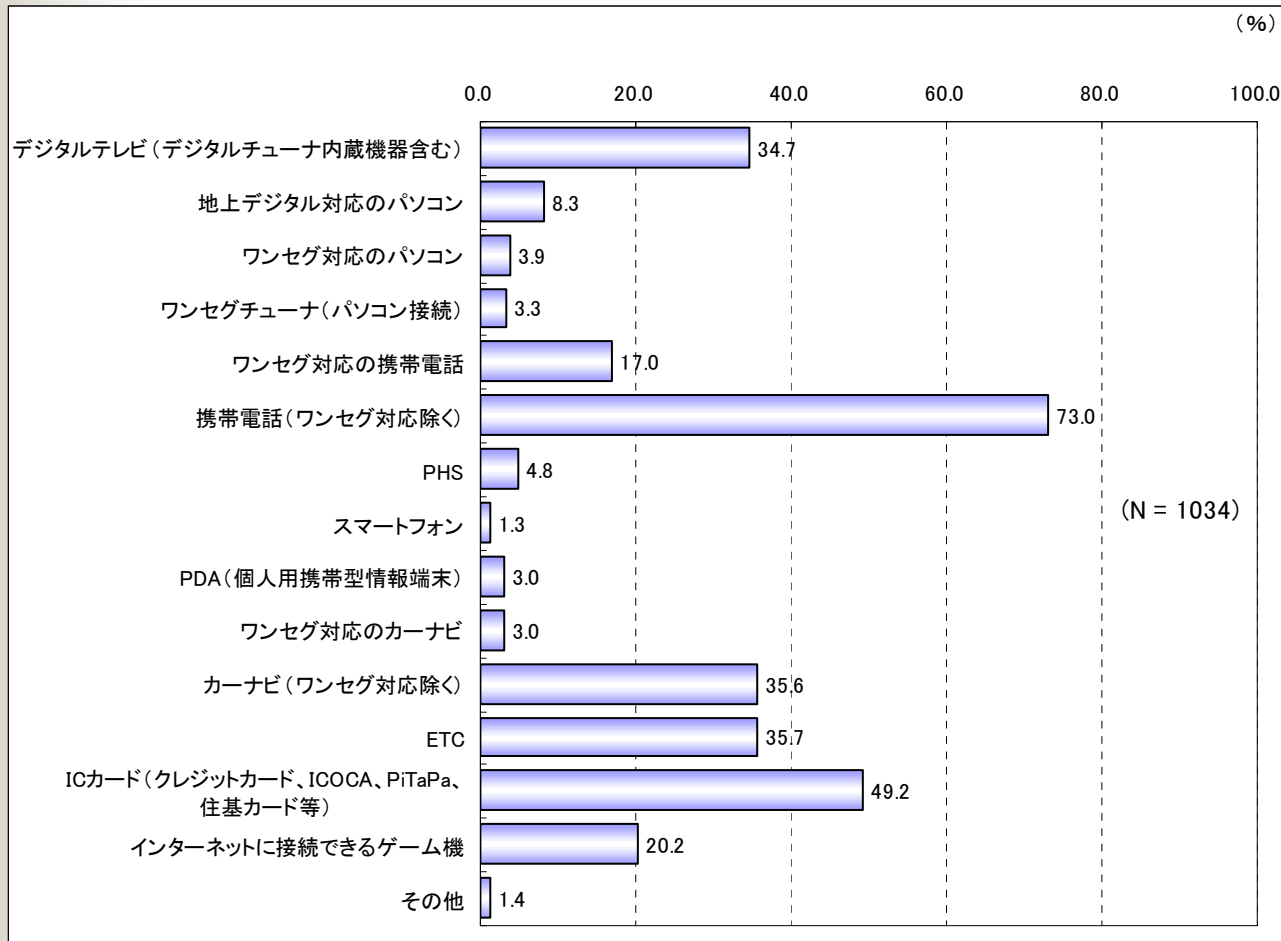
◆また「ワンセグ」は、18年度の利用者の3.2%から13.7%と飛躍的に増大しており、ワンセグエリアの拡大や携帯電話を中心とした端末機器の普及が大きな要因となっていることがうかがえる。

## 2. 調査結果

### (1) 家庭等における情報メディアの利用状況について

#### ■ICT機器の保有状況

(複数回答)



◆「携帯電話(ワンセグ対応含む)」、「ICカード」、「デジタルテレビ」と続き、特に「デジタルテレビ」は、18年度調査(24.6%)から大きく増加している。

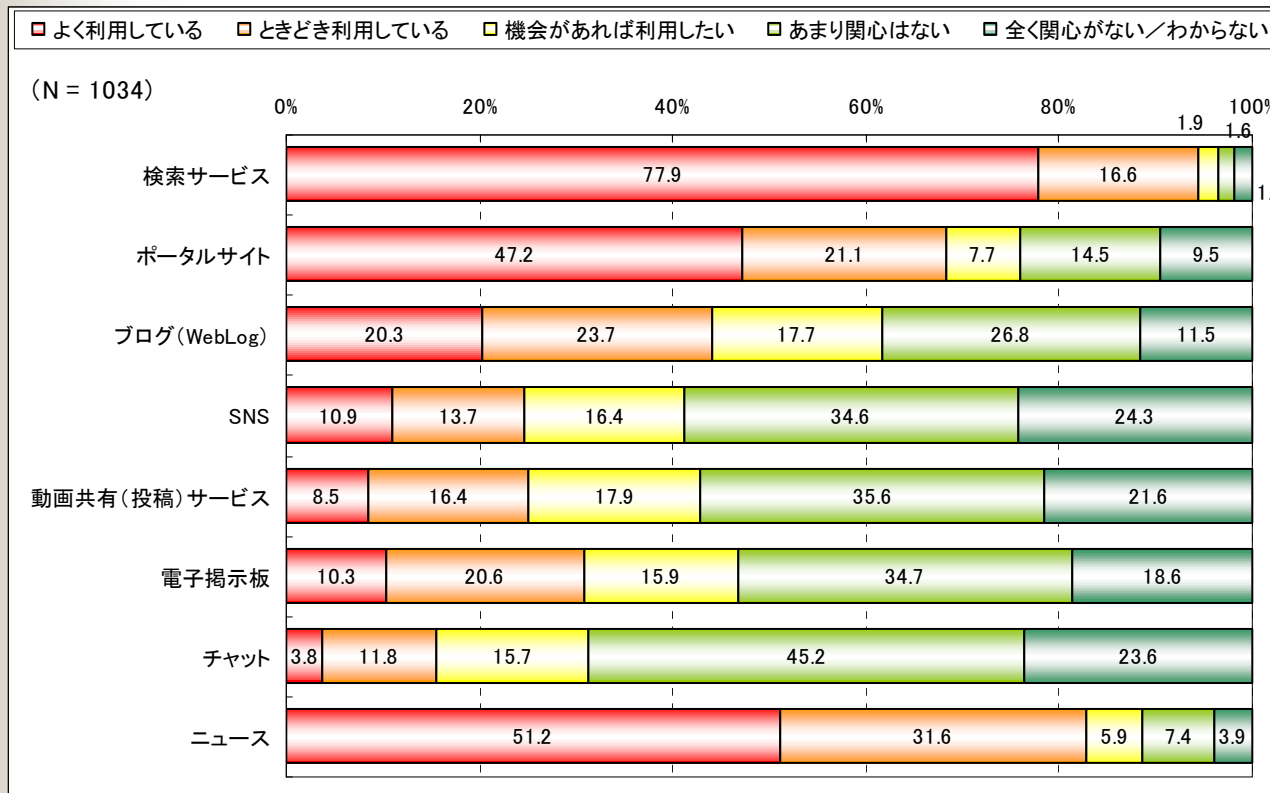
◆また、「ワンセグ対応の携帯電話」(17.0%)、「地上デジタル対応のパソコン」(8.3%)、「ワンセグ対応のパソコン」(3.9%)、「ワンセグ対応のカーナビ」(3.0%)など、地上デジタルやワンセグの付加価値を持ったICT機器は、18年度調査から大きく増加し、近年の地上デジタルの急激な普及が見て取れる。

# 2. 調査結果

## (2) インターネットの利用状況について

### ■ インターネットのサービス形態の利用状況

(単一回答)



◆「検索サービス」は、“よく利用している～ときどき利用している”までを含めると、94.5%になり、インターネット利用者の大部分の人が利用している。次いで、「ニュース」、「ポータルサイト」であり、これらのサービスも多くの人が利用している。

◆「SNS」は、“よく利用している～ときどき利用している”が24.6%であり、18年度調査の16.2%から大きく利用者が増えている。

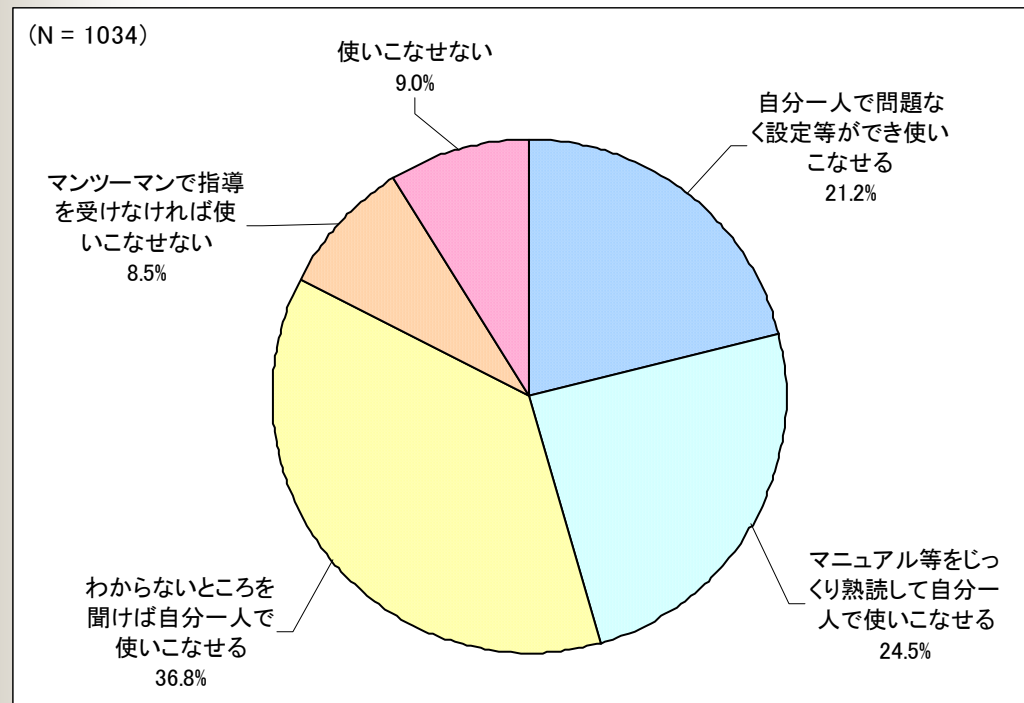
◆「動画共有サービス」は近年の新たなサービスであるが、“よく利用している～ときどき利用している”で24.9%であり、「SNS」と同じ程度に多くの人に浸透しつつある。

## 2. 調査結果

### (2) インターネットの利用状況について

#### ■ パソコン設定等ICT機器の使いこなしの度合い

(単一回答)



◆ICT機器の使いこなしの度合いは、「自分一人で問題なく設定等ができる使いこなせる～マニュアル等をじっくり熟読して自分一人で使いこなせる」をあわせると45.7%であり、半数近くの人が「使いこなせる」と認識している。

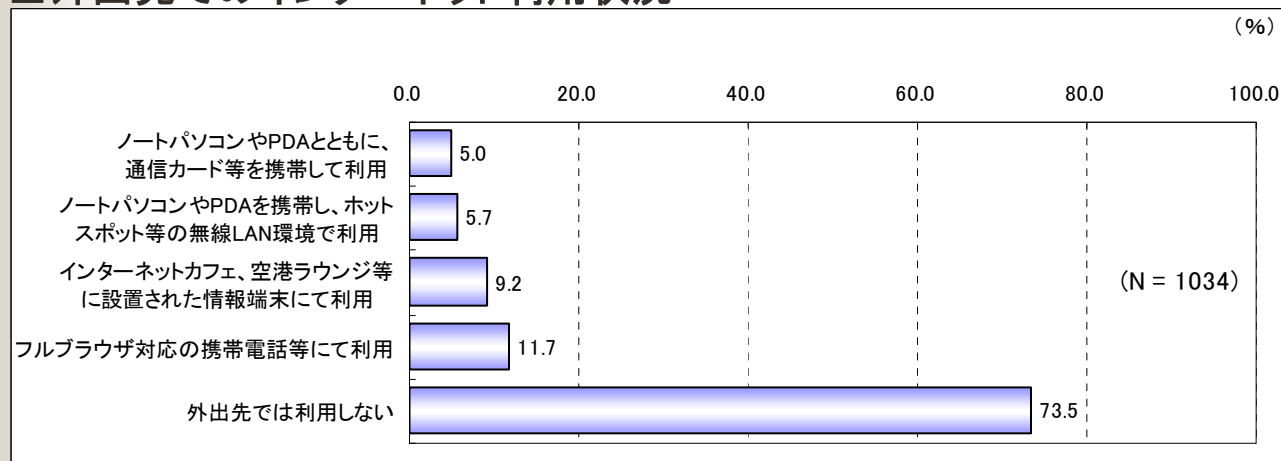
◆「わからないところを聞けば自分一人で使いこなせる」(36.8%)まで含めると、80%以上の人が、程度の差はあるにせよICT機器を使いこなしている。

# 2. 調査結果

## (2) インターネットの利用状況について

### ■ 外出先でのインターネット利用状況

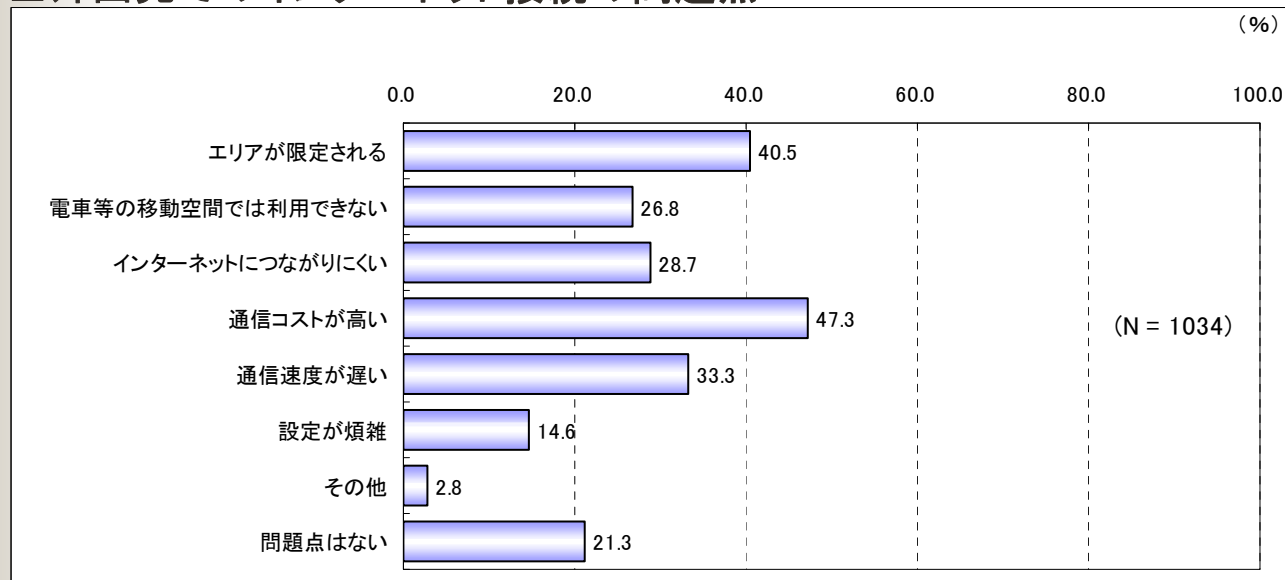
(複数回答)



◆ 外出先でのインターネットの利用(携帯電話向けサイトへの接続及び携帯電話からのメールは除く)は、73.5%の人が利用していない。この状況は、携帯電話等による携帯電話向けサイトから情報収集している人が多いことに起因していることが考えられる。

### ■ 外出先でのインターネット接続の問題点

(複数回答)



◆ 外出先でのインターネット接続の問題点は、「通信コストが高い」、「エリアが限定される」、「通信速度が遅い」がトップ3であるが、他の項目も20%前後であり、様々な問題を抱えているころがうかがえる。

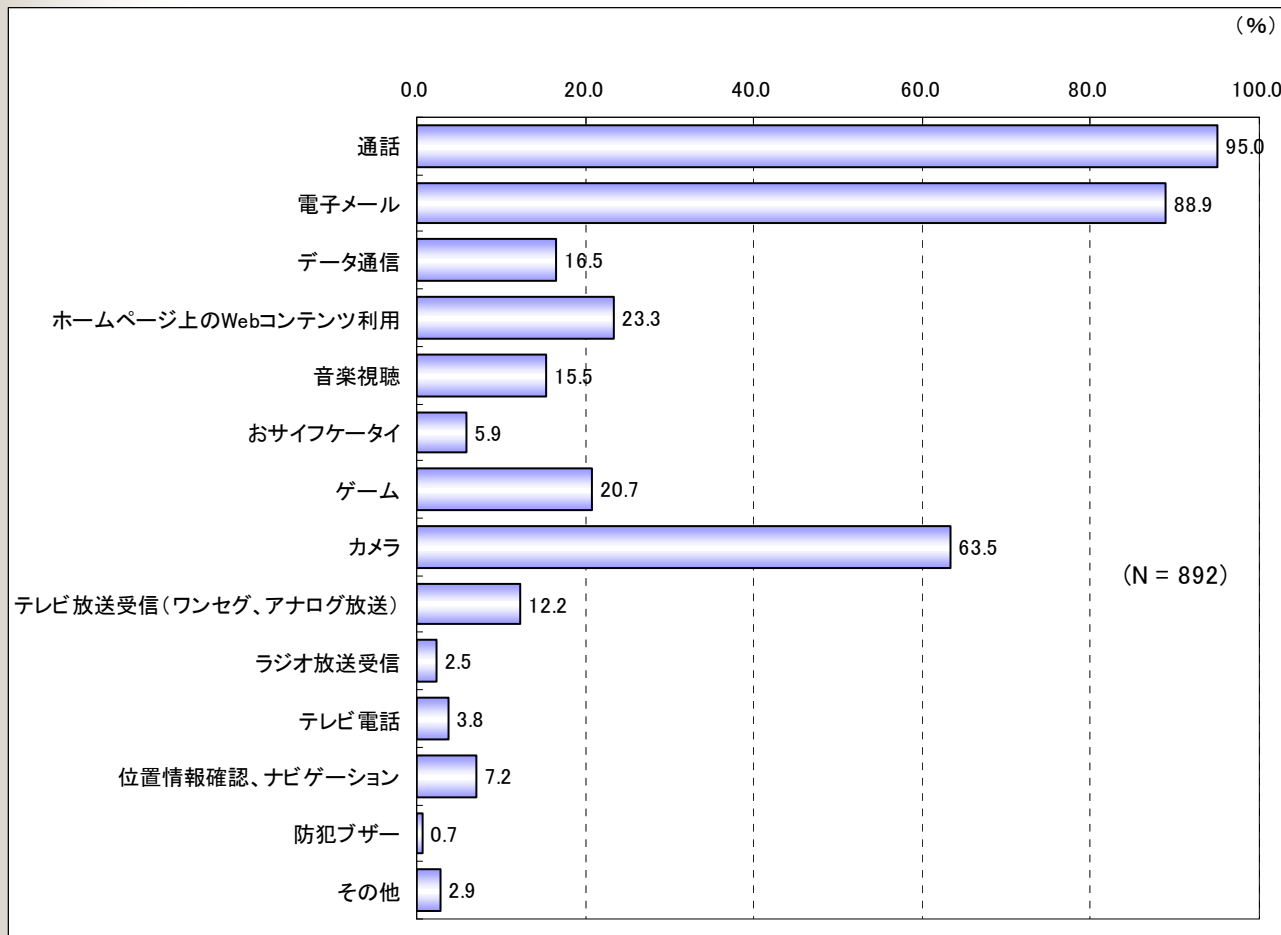


## 2. 調査結果

### (3) 携帯電話・PHSの利用状況について

#### ■ 携帯電話・PHSの利用機能

(複数回答)



◆携帯電話・PHSの日頃の利用機能は、「通話」、「電子メール」が突出しており、続いて「カメラ」、「ホームページ上のWebコンテンツ利用」となっている。ほとんどの人が通話機能を利用するとともに、電子メールでの情報交換を主としている。

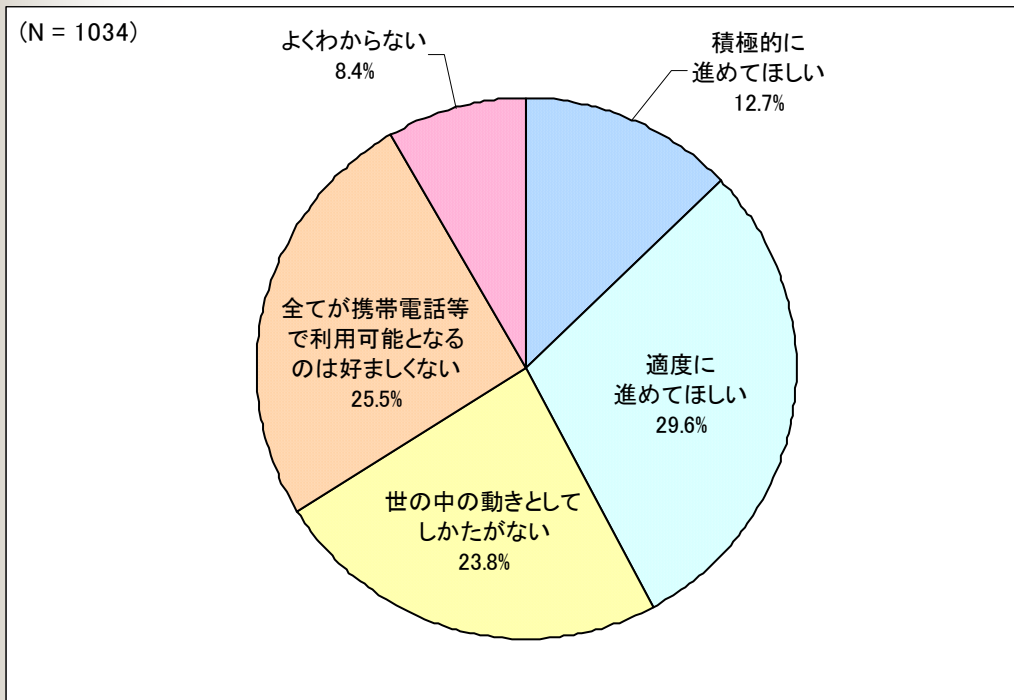
◆その一方で、携帯電話等による「ホームページ上のWebコンテンツ利用」は、先の家庭のパソコンによるコンテンツ閲覧(60~90%程度)に比べて低く、携帯電話がパソコンと並ぶユビキタス端末として期待されているにもかかわらず、まだまだ十分とはいえないと考えられる。

## 2. 調査結果

### (3) 携帯電話・PHSの利用状況について

#### ■ 携帯電話・PHSの高機能化

(単一回答)



◆携帯電話・PHSの高機能化については、「積極的に進めてほしい」の12.7%に比べ、「全てが携帯電話等で利用可能となることは好ましくない」が25.5%であり、まだまだこうした多機能化へは十分な理解が得られていないようである。

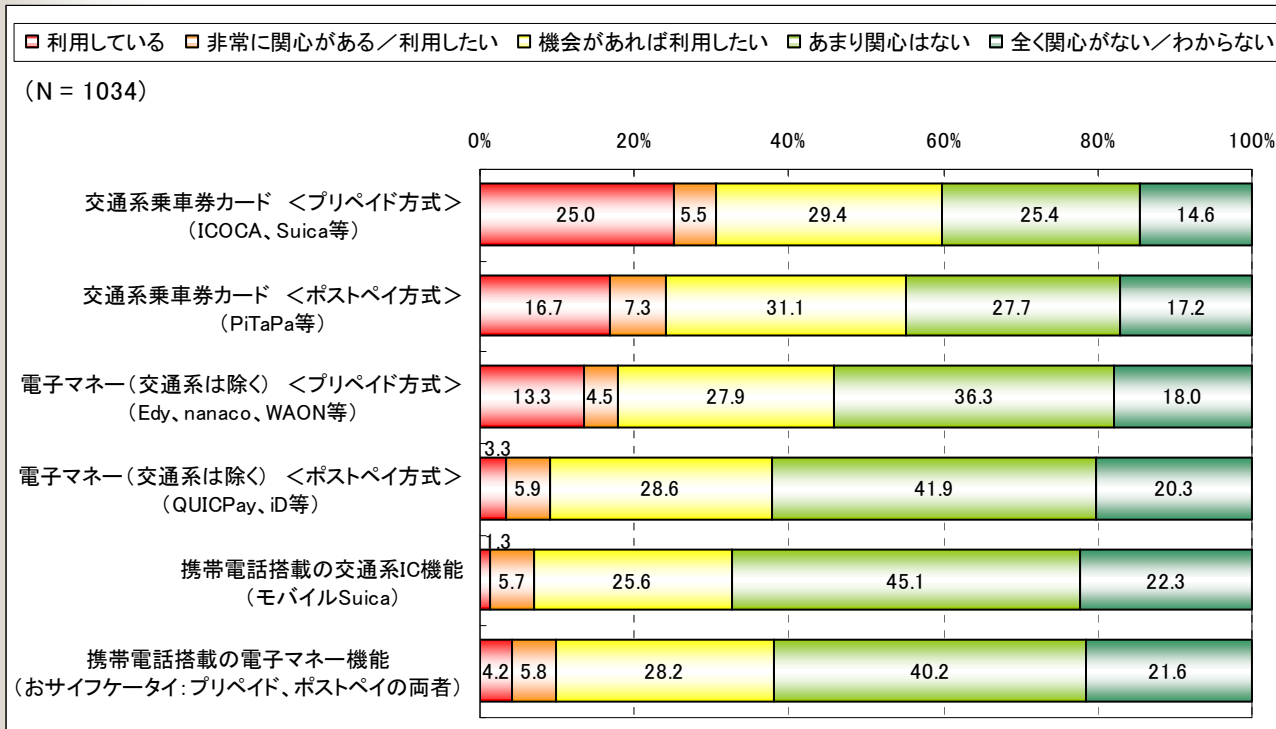
◆しかしながらその一方で、「適度に進めてほしい」が29.6%、「世の中の動きとしてしかたがない」が23.8%と意見が分かれているが、積極的ではないが端末の多機能化はユビキタスネット社会の方向として認識していることがうかがえる。

# 2. 調査結果

## (4) ICカードについて

### ■ICカードの利用状況・関心度

(単一回答)



◆電子マネー系のICカードの利用状況・関心度において、ICOCA、Suica等の「プリペイド方式の交通系乗車券カード」は、25.0%の人が利用しており、“非常に興味がある～機会があれば利用したい”まで含めると、約60%が利用を望んでいる。

◆交通系を除いた電子マネーは、“利用している”がプリペイド方式でも13.3%、ポストペイ方式においては3.3%と、これからの普及が期待される。

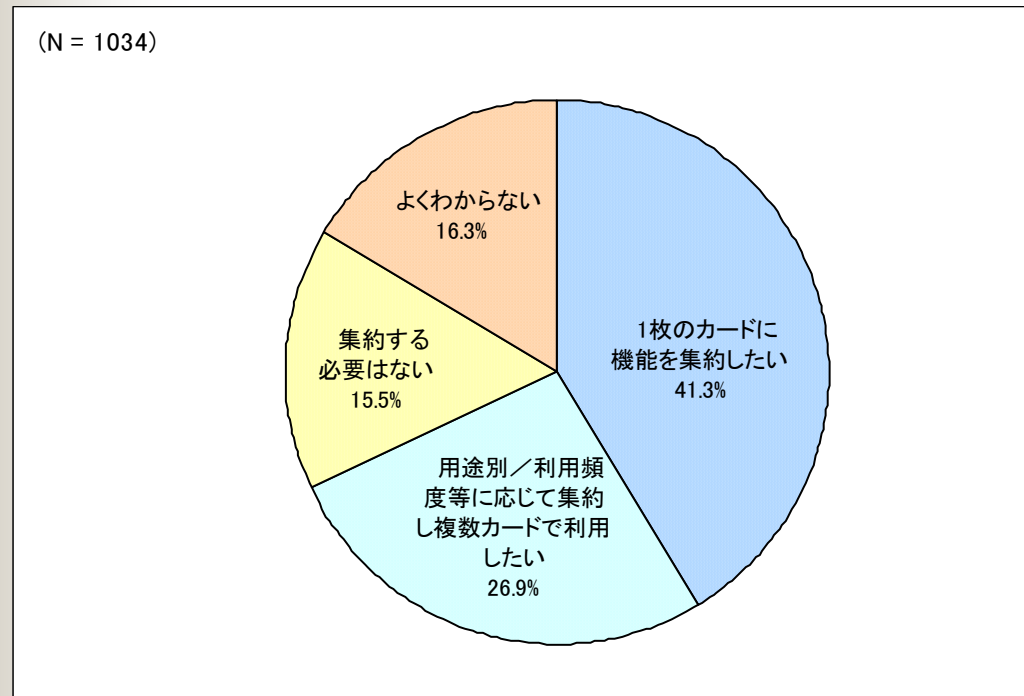
◆「携帯電話搭載の交通系IC機能(モバイルSuica)」は、関西圏では、乗車券としての利用はできないが、ビジネスマンの関東圏への出張などでの利用が想定され、“利用している～非常に興味がある／利用したい”で7.0%にも達し、今後の関西圏での普及が期待される。

## 2. 調査結果

### (4) ICカードについて

#### ■ICカードの多機能化

(単一回答)



◆近年のICカードの多機能化については、「1枚のカードに機能を集約したい」が41.3%で最も多く、次いで、「用途別/利用頻度等に応じて集約し複数カードで利用したい」が続き、総じてカードの多機能化には肯定的な意見が多い。

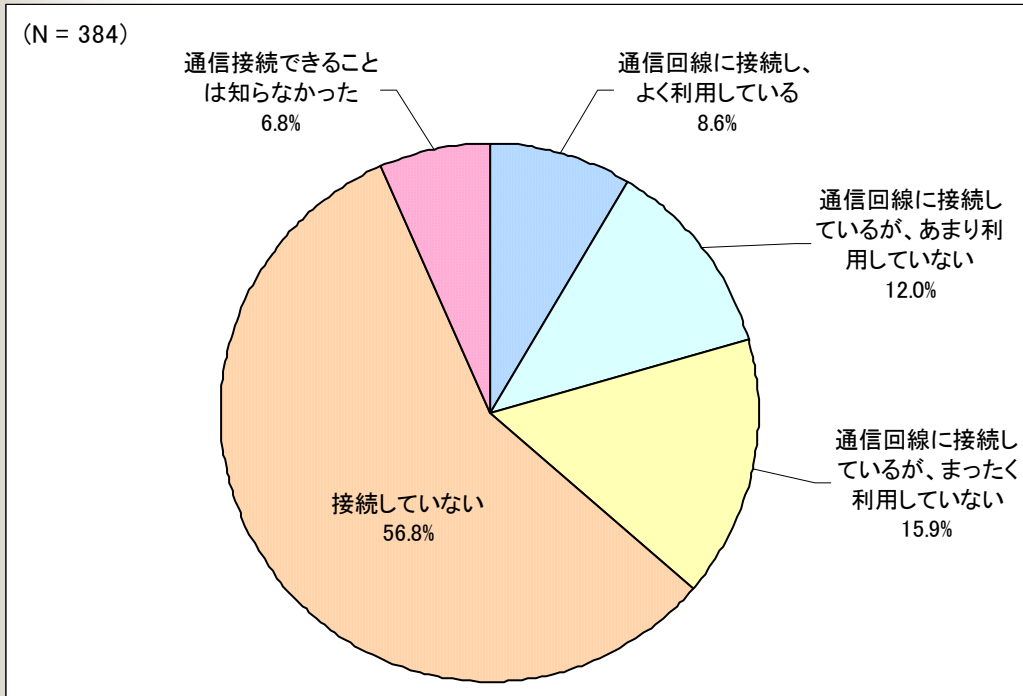
◆こうした傾向は、携帯電話・PHSの高機能化とは若干異なる。携帯電話・PHSでは、「全てが携帯電話等で利用可能となることは好ましくない」など否定的な意見が約1/4に達するが、ICカードでは、「集約する必要はない」は15.5%に留まり、否定的な意見は少ない。

## 2. 調査結果

### (5) 地上デジタル放送について

#### ■ デジタルテレビの通信接続

(単一回答)



◆ デジタルテレビで可能な通信回線への接続は、地上デジタルテレビ保有者の半数以上の56.8%が実施しておらず、この機能の周知が徹底しているとはいえない。

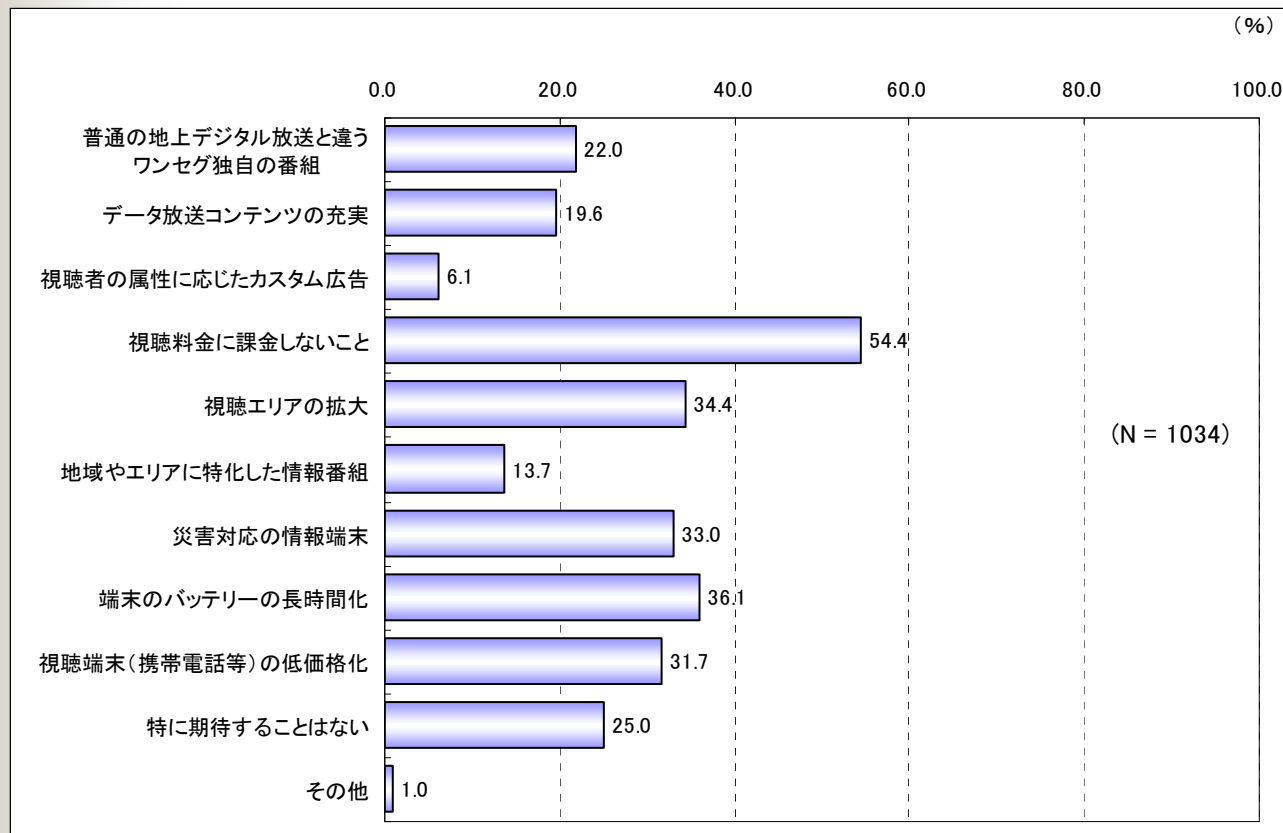
◆ また、「通信回線に接続しているが、まったく利用していない」が15.9%、「通信回線に接続しているが、あまり利用していない」が12.0%であり、ほとんど活用されていないといえる。

## 2. 調査結果

### (5) 地上デジタル放送について

#### ■ワンセグへの期待

(複数回答)



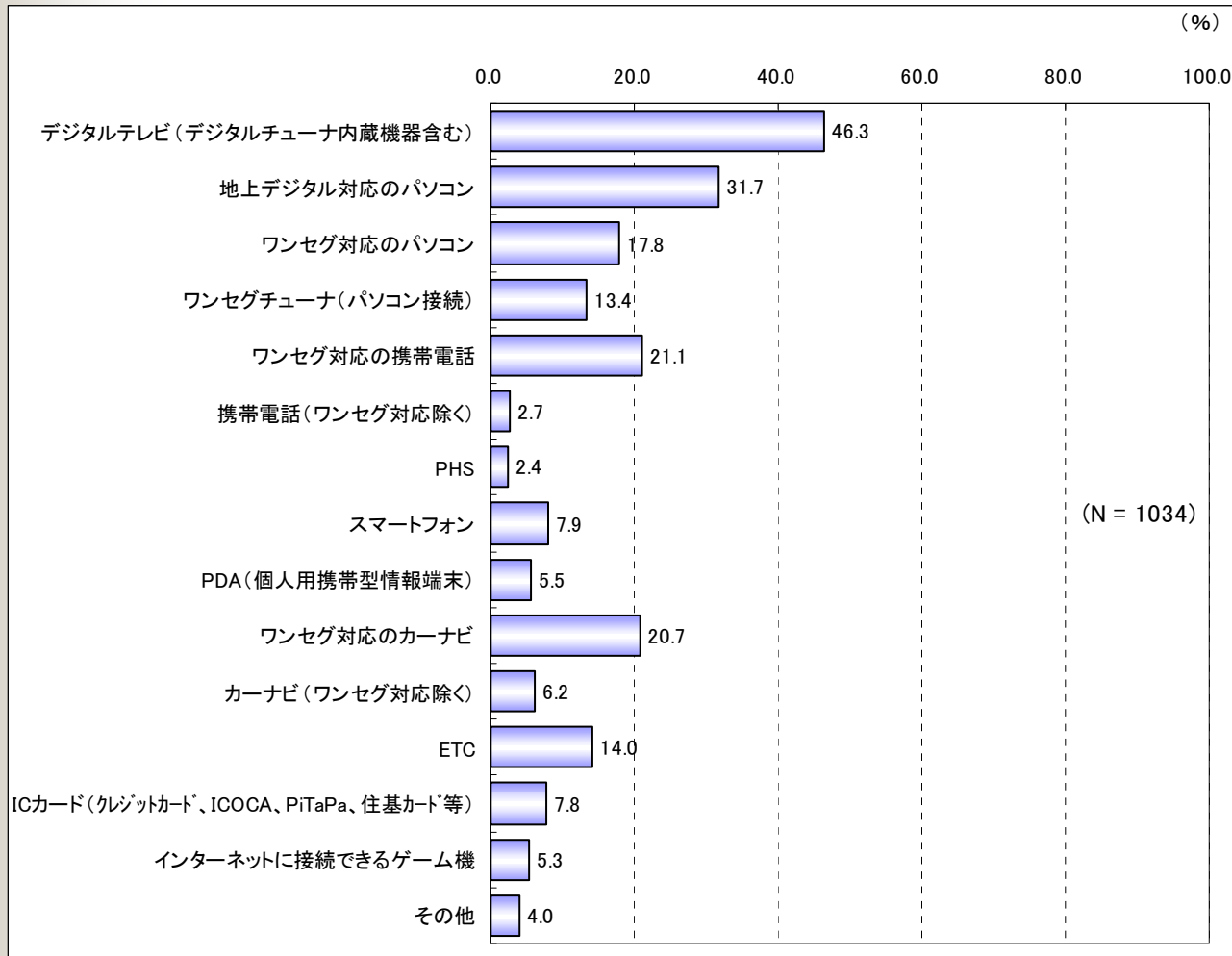
◆ワンセグへの最も大きな期待は、「視聴料金に課金しないこと」が最も多く54.4%であり、その次に「端末のバッテリーの長時間化」、「視聴エリアの拡大」、「災害対応の情報端末」、「視聴端末の低価格化」が30%以上であり、多岐にわたっている。

## 2. 調査結果

### (6) ICT機器の保有意向について

#### ■ICT機器の保有意向

(複数回答)



◆新たなICT機器の保有意向は、地上デジタル放送の開始以降、薄型大画面テレビの普及もあって、デジタルテレビへの関心が益々高まり多くの人が保有を望んでいるが、数値的にみると、その割合は46.3%であり、18年度の56.6%から下がっている。これは、デジタルテレビが急速に普及してきたことが要因であると考えられる。

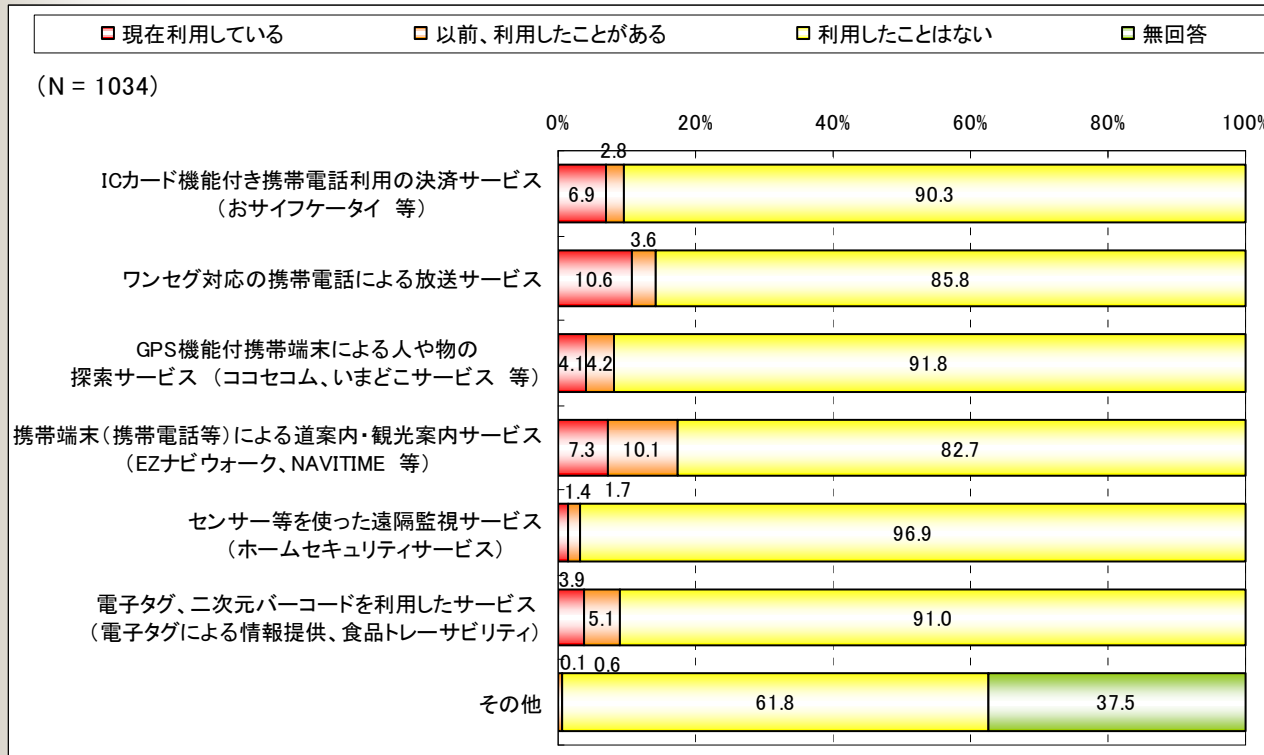
◆その他、「地上デジタル対応パソコン」や「ワンセグ対応パソコン」、「ワンセグ対応の携帯電話」、「ワンセグ対応のカーナビ」など、保有意向の傾向も18年度調査と同様であるが、数値的には若干下がっており、地上デジタル放送及びワンセグの普及によるものといえる。

# 2. 調査結果

## (7) ユビキタスネット社会について

### ■ ユビキタスサービスの利用状況

(単一回答)



◆ 現在、サービスが提供されている主なユビキタスサービスの利用状況を見ると、“現在利用している”が、10%を越えているサービスは「ワンセグ対応の携帯電話による放送サービス」のみであり、サービスとしては黎明期の段階である。

◆ “以前、利用したことがある”が、「携帯端末による道案内・観光案内サービス」(10.1%)、「電子タグ、二次元バーコードを利用したサービス」(5.1%)、「GPS機能付携帯端末による人や物の探索サービス」(4.2%)と、現在の利用者と同程度、あるいはそれ以上の人が何らかの要因によりサービスを中止していることから、コンテンツ面や技術面などの問題点を抱えているために、まだまだ社会に浸透していないサービスであることがうかがえる。

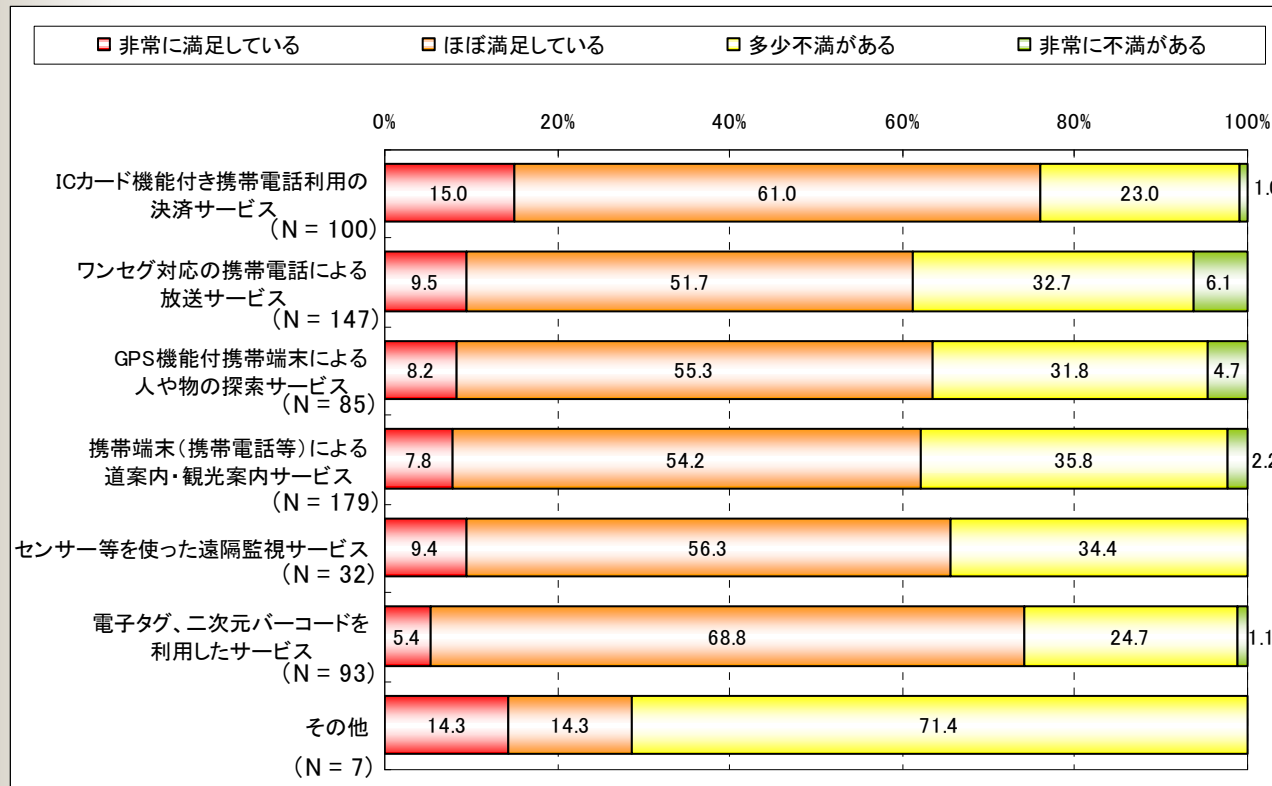


# 2. 調査結果

## (7) ユビキタスネット社会について

### ■ ユビキタスサービスの満足度

(単一回答)



◆様々なユビキタスサービスの満足度は、実際の利用者は少ないものの、全てのサービスで“非常に満足している～ほぼ満足している”が60%以上であり、非常に高い結果となっている。

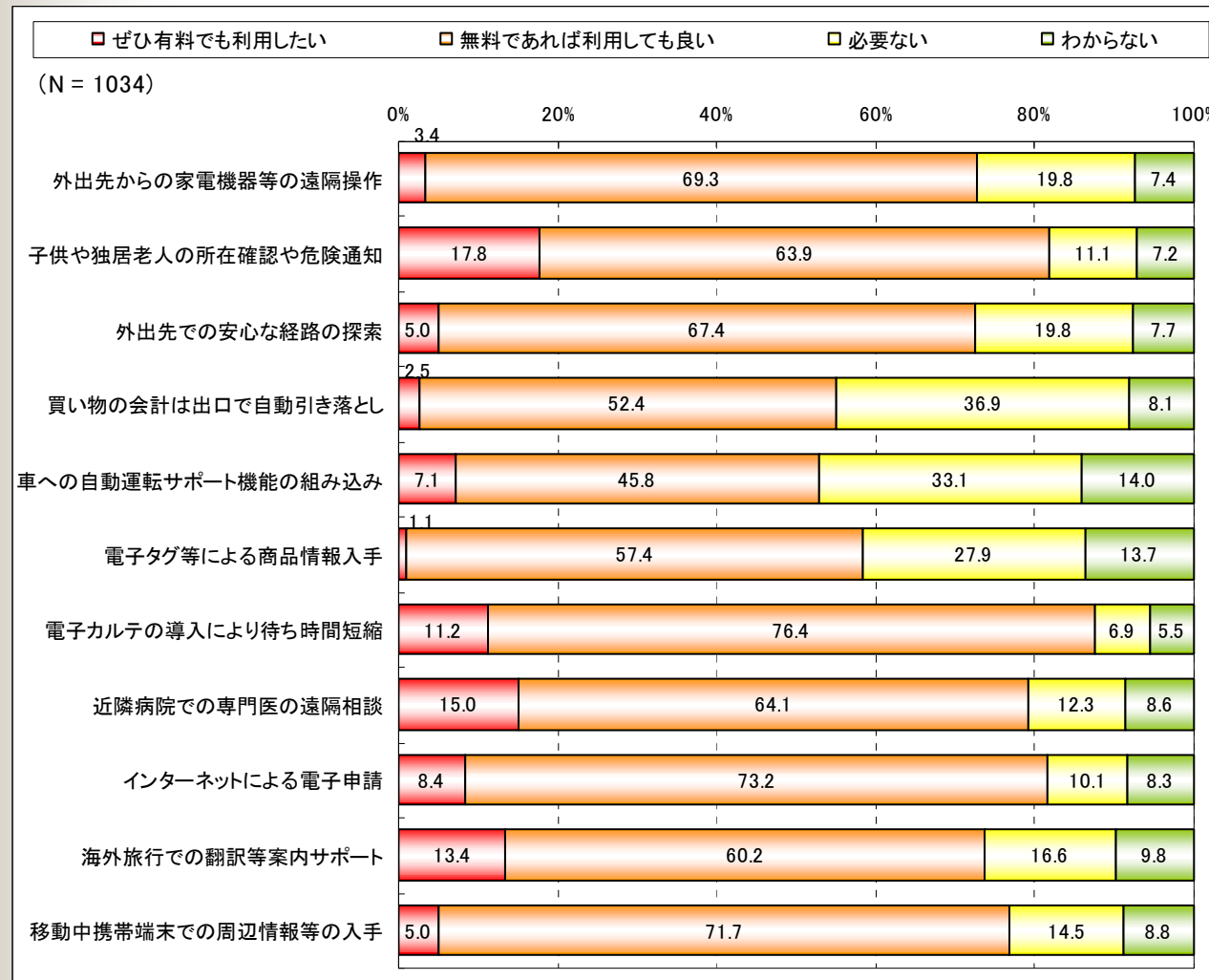
◆これは、18年度調査と同じ傾向であるが、「電子タグ、二次元バーコードを利用したサービス」、「センサー等を使った遠隔監視サービス」は、他のサービスの満足の割合があまり変わっていないのに対して、“非常に満足している”が下がっている。

# 2. 調査結果

## (7) ユビキタスネット社会について

### ■ ユビキタスネット社会の新たなサービスの利用意向

(単一回答)



◆有料でも利用したい新たなユビキタスサービスは、「子供や独居老人の所在確認、危険通知」、「近隣病院での専門医の遠隔相談」、「海外旅行での翻訳等案内サポート」、「電子カルテの導入により待ち時間短縮」が10%以上で上位となっており、社会インフラとしての必要性を指摘している。

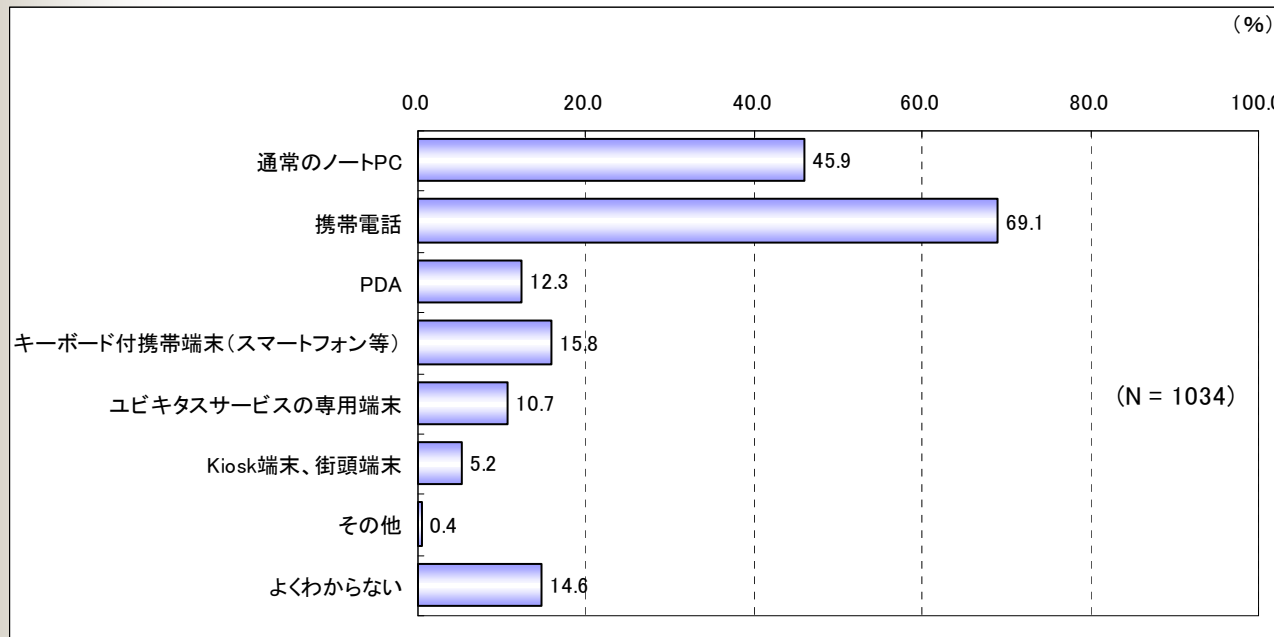
◆“無料なら利用”をみると、上記トップ4を含め、「移動中携帯端末での周辺情報等の入手」、「外出先からの家電機器等の遠隔操作」、「外出先での安心な経路の探索」が60%以上を占めており、これらのサービスは生活の利便性向上に必要ではあるが無料が妥当であると考えていることがうかがえる。

## 2. 調査結果

### (7) ユビキタスネット社会について

#### ■望ましいと考えられる情報端末の形態

(単一回答)



◆ユビキタスサービスの享受において、望ましいと考えられる情報端末の形態は、「携帯電話」、通常のノートPCが圧倒的に多く、使い慣れている端末をそのまま利用したいという傾向が明らかである。また、「キーボード付携帯端末」や「ユビキタスサービスの専用端末」も10%以上である。

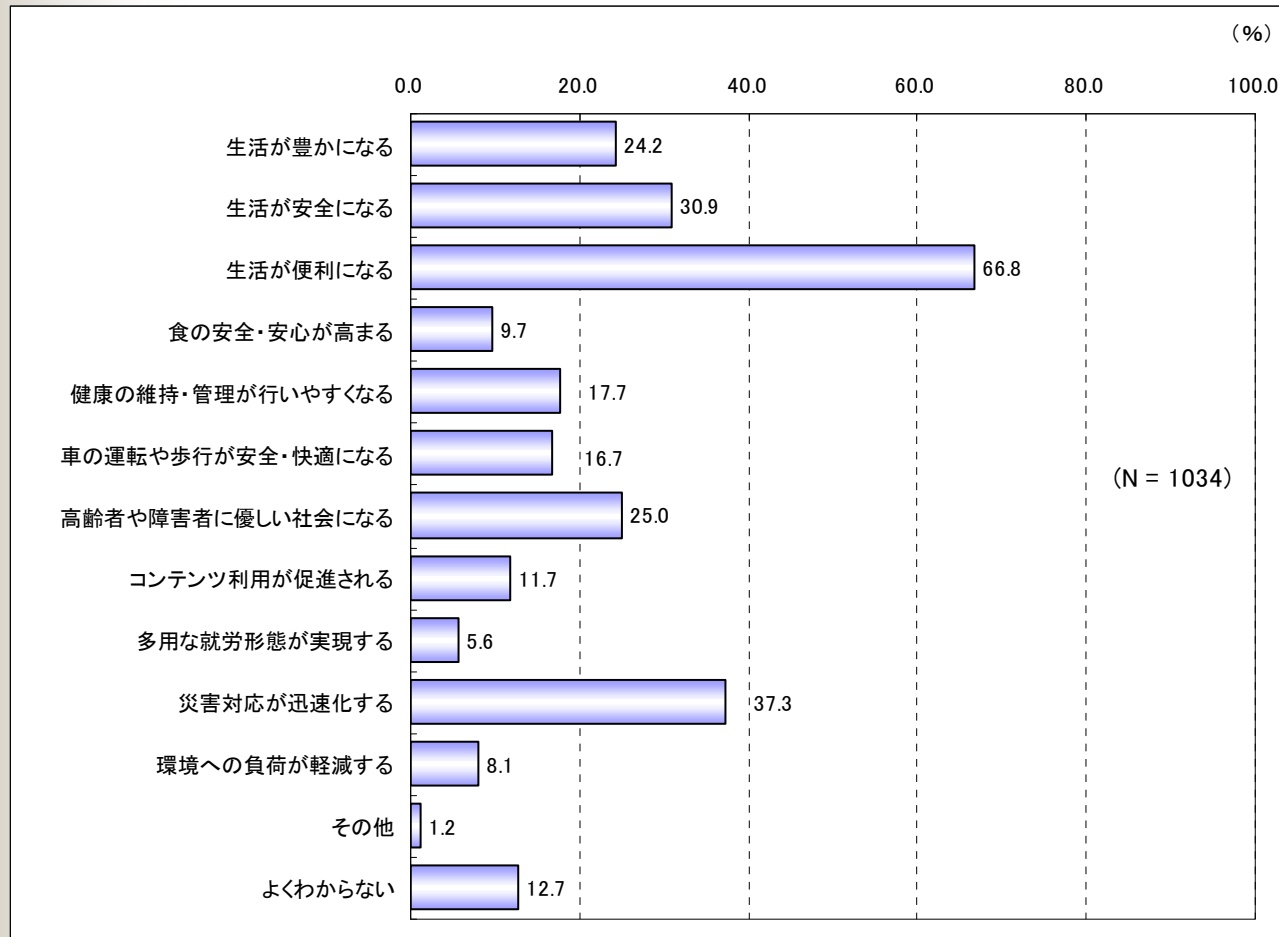
◆「Kiosk端末、街頭端末」はわずか5.2%であり、こうしたオープン端末は、個人保有の端末へのサービスを補助する役割になるのではないかと想像される。

## 2. 調査結果

### (8) ユビキタスネット社会への期待と不安

#### ■ ユビキタスネット社会への期待

(単一回答)



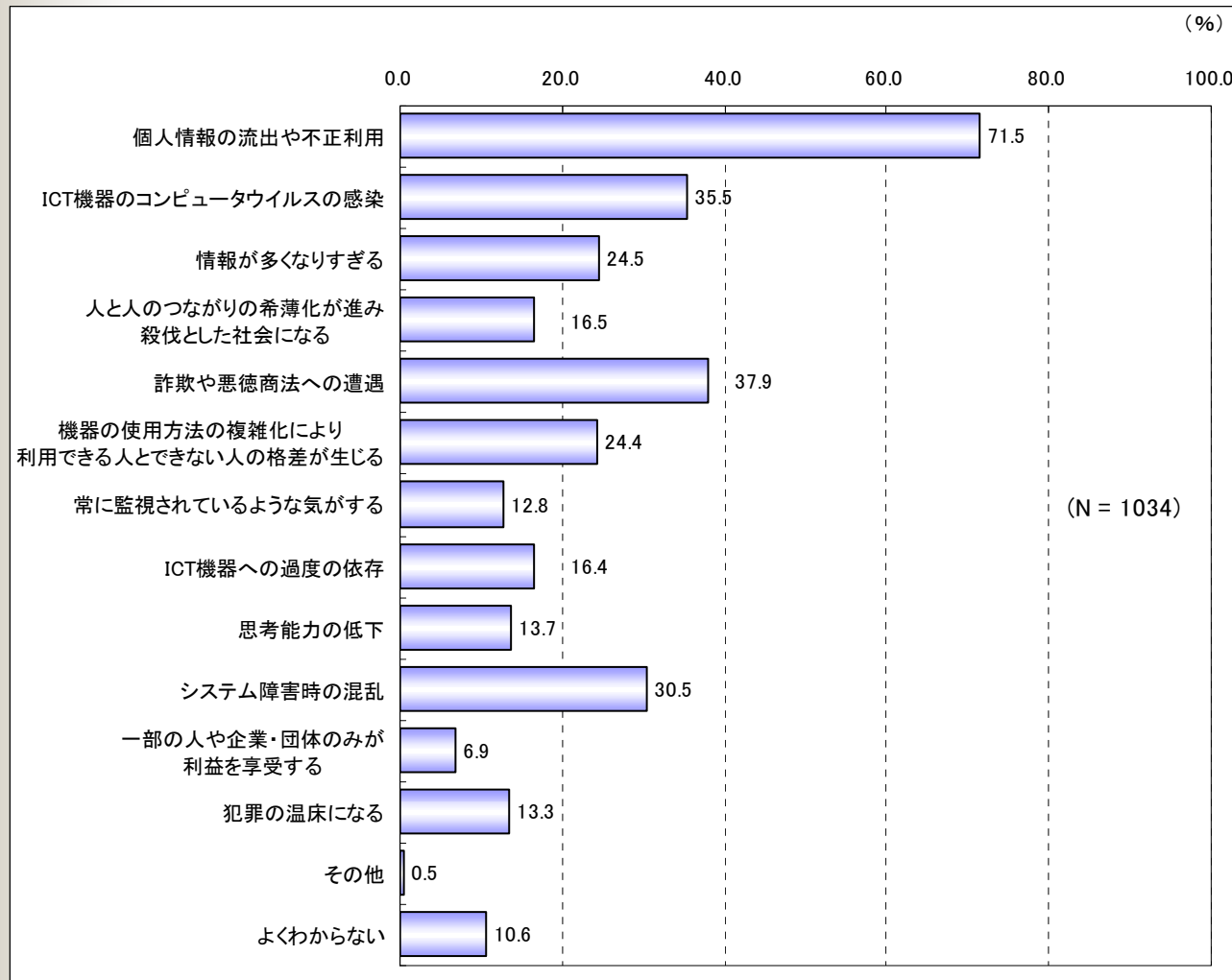
◆ ユビキタスネット社会への期待内容は、「生活が便利になる」が群を抜いている。続いて、「災害対応が迅速化する」、「生活が安全になる」、「高齢者や障害者に優しい社会になる」となり、便利さとともに、安全・安心の社会を期待している。

## 2. 調査結果

### (8) ユビキタスネット社会への期待と不安

#### ■ ユビキタスネット社会の不安

(単一回答)



◆ ユビキタスネット社会に対して不安である内容は、プライバシー侵害、情報システム上のセキュリティ不安、電子商取引の悪用などの内容が上位を占めている。

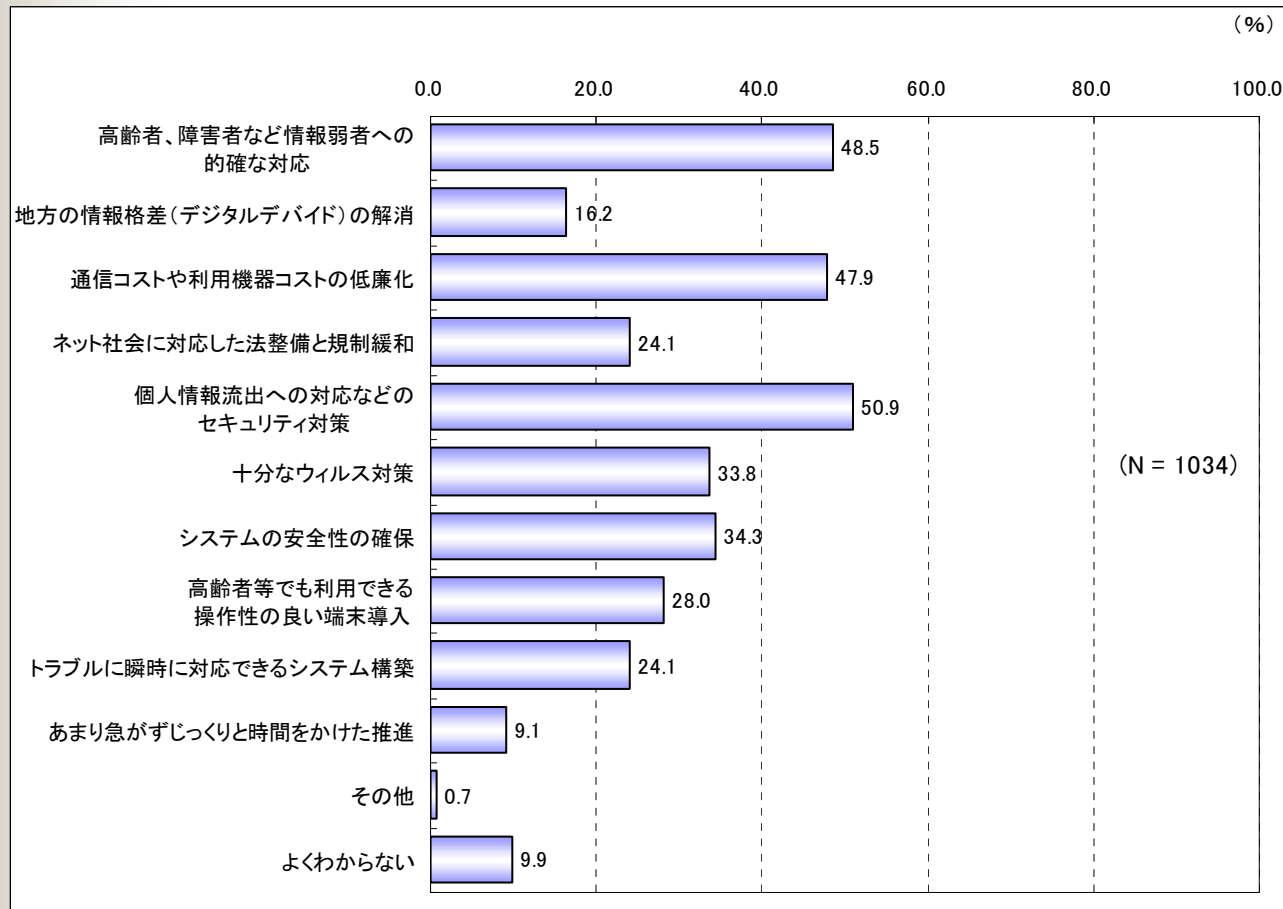
◆ また、人と人との交流の希薄化や、ICT機器への依存等によるコミュニティやコミュニケーションの場の必要性をも指摘している。

## 2. 調査結果

### (8) ユビキタスネット社会への期待と不安

#### ■ ユビキタスネット社会推進への要望

(単一回答)



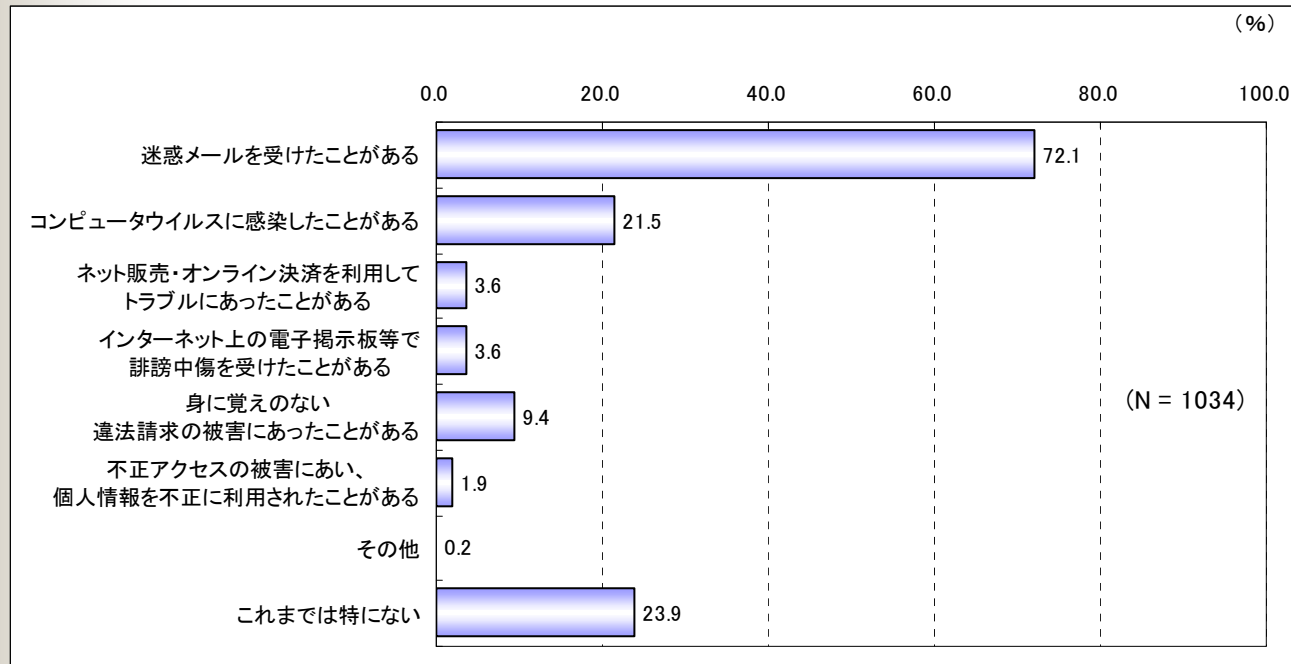
◆ ユビキタスネット社会推進への要望は、「個人情報流出への対応などのセキュリティ対策」、「高齢者、障害者など情報弱者への的確な対応」、「通信コストや利用機器コストの低廉化」がトップ3であるが、「システムの安全性の確保」、「十分なウィルス対策」など、要望内容は多岐にわたっている。

## 2. 調査結果

### (8) ユビキタスネット社会への期待と不安

#### ■情報セキュリティのトラブル経験

(単一回答)



◆情報セキュリティのトラブル経験は、「迷惑メールを受けたことがある」が72.1%と群を抜いて高く、インターネットや携帯電話では迷惑メールは避けては通れないものである。次いで、「コンピュータウイルスに感染したことがある」、「身に覚えのない違法請求の被害にあったことがある」が続いているが、「これまでは特いない」が23.9%と第2位となっている。

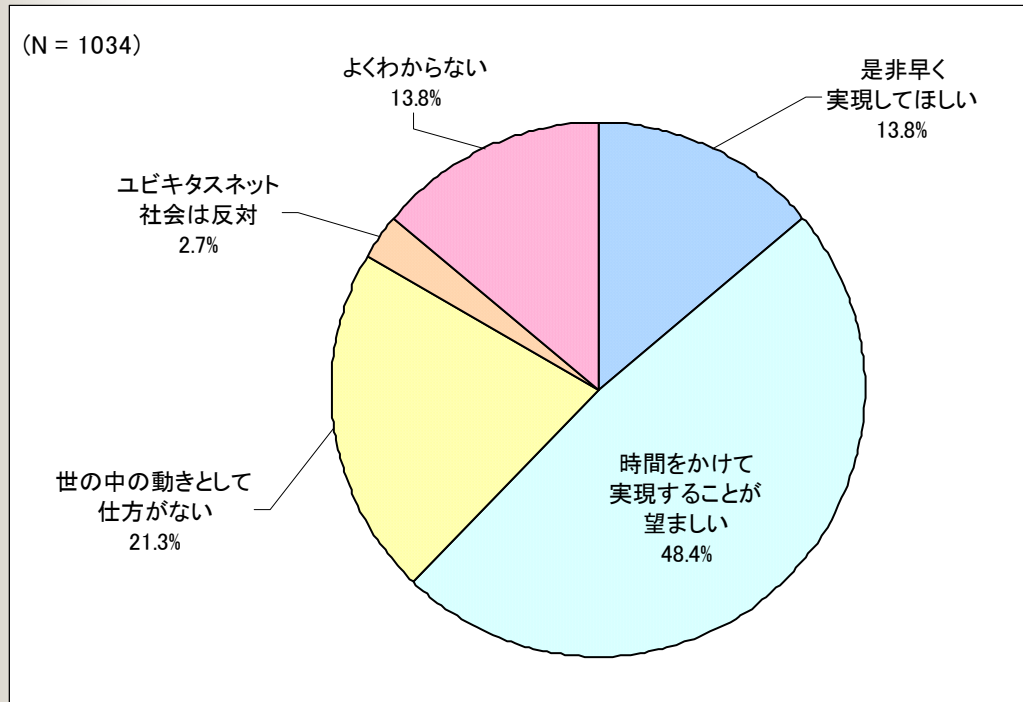
◆18年度調査では、トップの「迷惑メールを受けたことがある」が比率的にもあまり変わっていないが、「コンピュータウイルスに感染したことがある」が38.2%であり、今年度調査では非常に少なくなった。これは、設問で「ここ1年の間に」という条件をつけたための結果であり、ウイルス対策が浸透してきたことがうかがえる。

## 2. 調査結果

### (8) ユビキタスネット社会への期待と不安

#### ■ ユビキタスネット社会への期待度

(単一回答)



◆ ユビキタスネット社会の実現に対する期待度は、「時間をかけて実現することが望ましい」が48.4%を占め、ユビキタスネット社会の“陰”の問題点や課題に対する技術向上や法整備などの進捗に合わせた方が良いと考えている人が多いことがうかがえる。